

新シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 1 回

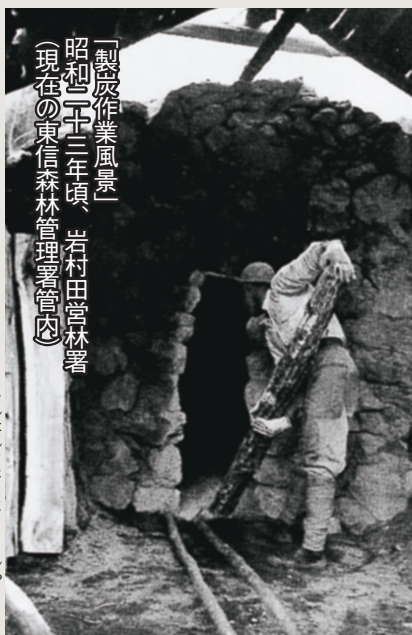
中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登いのうえ ひろと

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

製炭せいたん

日本の一般家庭での炊事にガスが普及したのは、昭和三十年前後のことだと言われています。それ以前の時代は薪・炭の利用が多かった訳ですが、その供給元は森林です。良くも悪くも、森林と人との関係が今よりもずっと近かったとも言えます。



「製炭作業風景」
昭和二十三年頃、岩村田宮林署
(現在の東信森林管理署管内)

国有林も地元の人により「薪炭共用林野」として薪の採取場として利用されることもありましたが(制度としては現在も存在します)。

また、戦前から官営の製炭事業も行われていました。戦中戦後の家庭用燃料、あるいはガソリンの代用燃料として、その時代の要請に応えていました。



「製炭小屋」
昭和二十九年、小坂宮林署
(現在の岐阜森林管理署管内)



「人背運搬」
年代不明、伊那宮林署
(現在の南信森林管理署管内)

炭俵は一俵四貫目、約十五キログラムほどで、人が何個も背負って運んだり、馬で運んだりしていました。また、森林鉄道やトラック、索道で運び出す風景も写真に残されています。時代の変化もあり、昭和三十年代末頃に製炭事業は中止されました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

